

## 医心 伝心

# 向精神薬(ベンゾジアゼピン)の 長期処方における減点について

富山県医師会常任理事 南里 泰弘

塩酸ベンゾジアゼピンは、GABA 受容体における神経伝達物質の  $\gamma$ -アミノ酪酸の作用を強め鎮静、傾眠、抗不安、陶酔、抗けいれん、筋弛緩の特性があり、抗不安薬、睡眠導入剤として用いられてきました。一方、これらの薬剤の問題点として健忘-解離作用が挙げられます。短期間の使用であれば安全で有効であるが、長期間使用の問題点として認知障害と攻撃性や行動脱抑制のような奇異反応が生じ、耐性、身体依存、断薬した場合の離脱症状が懸念されます。これらのことから今年度の診療報酬改定において、一定期間以上ベンゾジアゼピン受容体作動薬である抗不安薬・睡眠薬を、長期にわたって継続処方している場合に処方料・処方箋料を適正化することになりました。処方料29点、処方箋料40点と減額になり、これは1年以上継続処方した場合に、2019年4月から適応されることとなります。除外項目として日医の①e-ラーニングによる受講、②不安または不眠に係る適切な研修を修了した医師とされています。日医のe-ラーニングによる受講をお勧めしますが、富山県医師会では研修による単位取得ができるよう下記のとおり研修会を開催することとなりました。呉西地区では高岡市医師会と共催にて10月22日(月)高岡市医師会ホール会議室にて独立行政法人国立病院機構北陸病院睡眠医療センター長・第一精神科医長細川宗仁先生に『出口を見据えた不眠症治療薬の使い方 ～平成30年度診療報酬改定を踏まえて～』と題してご講演いただきます。

呉東地区では富山市医師会と共催にて11月8日(木)富山県医師会館1階大ホールにて同じく細川宗仁先生の講演を行います。単位取得希望の先生はどちらかの会場にて受講していただき、受講証明書は後日送付いたします。呈示を求められた際にご提出ください。

また、第73回富山県医学会を来年1月27日(日)開催いたします。昨年度は407名と多くの医師・メディカルスタッフの方々の参加があり、医療に関わるあらゆる分野における発表・口演を行いました。富山県医師会が学術団体であることの証であります。今年度のランチョンセミナーは専門医共通講習単位として医療安全が取得できるよう福井大学医学部医療環境制御センター医療安全管理部教授秋野裕信先生にご講演いただく予定です。多くの先生方にご参加いただきますようお願いいたします。また医師の働き方改革が問われている今、特別講演として富山県医師会副会長であり日医働き方改革委員会委員、勤務医委員会委員の泉良平先生に『医療機関における働き方改革について(仮)』と題してご講演いただく予定です。病院の管理者、役職者の先生方にぜひとも聞いていただきたいと思っております。現在、演題募集を行っております。今年度の口演発表のテーマは①多職種連携による医療、②わが病院の特色、③わが病院の働き方改革、④かかりつけ医の役割です。また一般演題としてポスター発表も募集しております。多くの皆さんの応募をお待ちしております。